

## 1. 1 シラバスの目的と利用法

本校では、中学校から入学してくる学生の基礎学力に配慮し、最近の急激な科学技術の進展に対応できる実践的な技術者教育を効果的に行えるように、教育課程表（カリキュラム）を作成しています。高等専門学校の数単位を計算する方法は、30 単位時間の履修をもって 1 単位として計算する履修単位と、4・5 年生のカリキュラムに対して 1 単位 45 単位時間の学修を標準とする学修単位 60 単位を上限として導入しています。特にこの学修単位は自学自習のトレーニングに主眼を置いた自ら考え行動する実践的な技術者教育です。各科目の受講にあたっては、このシラバスを参考にして学習に取り組んでいただきたいと思います。

シラバスは、学生のみなさんが講義の内容を事前に十分把握して授業を受けることができるように、受講科目の目標、授業要目の内容・計画、学習上の留意点等を記載したものです。各科目を担当する教員が、まず学生に講義の内容等を理解してもらうために、最初の授業の時にシラバスを配布し説明することになっています。また、最初の授業以外にも適宜授業で利用します。また、授業内容や評価はシラバスに沿って進められることとなります。学生諸君が、このシラバスを十分活用し、講義の準備を十分に行い、充実した学習成果が得られるようにしていただきたいと思います。また、学生のみならず教員もシラバスを活用することはもとより、授業内容の充実や改善に役立てください。

このシラバスを読むことによって次の情報を得ることができます。

- (1) 本校の学習・教育到達目標
- (2) 学科の教育方針・学習の留意点・資格取得
- (3) 学科の教育課程と週当たりの授業時間数
- (4) 学科の教育課程の流れ
- (5) 学科の教職員及び非常勤講師の氏名、連絡先
- (6) 学科の科目ごとの授業計画
- (7) JABEE 認定
- (8) その他（年間行事予定など）

なお、このシラバスは電子化され、本校の Home Page にも掲載されています。こちらは、授業の進捗などを修正する場合、常に最新の情報を提供しています。併せて活用してください。

2015 年 4 月  
教務主事

**追記 1:** 学期末において不可となった科目については、学力向上対策として、補習授業などの学習支援や再試験等を実施し、最終的な成績評価をすることとしています。これは安易に点数を上げるのではなく、学生の実力が証明できる形で成績を再検討するものです。

## 1. 2 学習・教育到達目標（本科）

本校では、養成すべき人材像、および学生が身に付ける学力、資質・能力として、以下の学習・教育到達目標を掲げています。

1. 人類の未来と自然との共存をデザインする技術者
  - 1-a 現代社会を生きるための基礎的知識を身につけ、社会の様々な事柄に関心を持つことができる。
  - 1-b 様々な課題に取り組み、技術と社会との関連に関心を持つことができる。
  
2. グローバルに活躍する技術者
  - 2-a 日本語の文章の内容を正確に読み取り、自分の考えを的確に表現することができる。
  - 2-b 英語の基本的な内容を正確に理解し、自分の意図を英語で伝えることができる。
  
3. 創造力豊かな開発型技術者
  - 3-a 専門知識を修得する上で必要とされる数学・物理・化学など自然科学の知識を修得し、それらを継続的に学習することができる。
  - 3-b コンピュータやその周辺機器を利用して文書作成ができ、ネットワークを通して、有用な情報を取得することができる。
  - 3-c 専門分野の学習や工学実験等を通して、専門分野の基礎的な知識を修得することができる。
  - 3-d ものづくりと自主的継続的な学習を通して、創造性を養い専門分野の知識を応用することができる。
  
4. 相手の立場に立ってものを考える技術者
  - 4-a 技術者の社会的な責任を理解することができる。
  - 4-b 様々な文化、歴史などを通して多様な価値観を学ぶことで、相手の立場に立って物事を考えることができる。

## 1. 3 教育課程について

教育課程には、一般科目と専門科目の区別があります。それぞれの授業科目は、通年・前期・後期に分かれて授業が行われます。各学年の授業科目や単位数は、各科の教育課程表（別表参照）に示してあります。

単位の種別には、次に示す履修単位と学修単位の2種類の単位があります。

なお、1単位時間は基本50分授業、また連続90分授業は2単位時間とみなせます。

### (1)履修単位の科目

30単位時間の履修をもって1単位とする科目です。1～3年生の科目は、すべて履修単位の科目になります。

### (2)学修単位の科目

45単位時間の学修（講義＋自学自習）をもって1単位とする科目です。この学修単位については、授業時間と自学自習時間の組み合わせとして、1単位45単位時間の学修を達成できるように、次の2種類の講義を設定しています。ただし、単位取得は60単位が上限となります。講義内容と回数についてはシラバスを参照してください。

#### (a)講義Ⅰについて

30単位時間の講義と15単位時間の自学自習をもって1単位とする科目です。

#### (b)講義Ⅱについて

15単位時間の講義と30単位時間の自学自習をもって1単位とする科目です。

なお、教育課程表において、講義Ⅰの科目は単位数に＊を、講義Ⅱの科目は単位数に＊＊を付けて表示しています。

## 1. 4 授業科目について

授業科目には必修科目、A群科目、B群科目があります。

- (1)必修科目は必ず単位を修得しなければなりません。なお、必修科目を修得できないと、進級や卒業ができなくなります。
- (2)A群科目は、各学科において受講が必要な科目で、受講願いを提出する必要はありません。このA群科目の授業を欠課しますと、欠課時数としてカウントされることになります。
- (3)B群科目は、各学科において自ら選択して受講する科目になります。このB群科目を受講するにあたっては、定められた日まで受講願いを教務係に提出する必要があります。なお、決められた期間中に受講辞退届を出すことで、開講時にさかのぼって受講しなかったものとして取り扱われます。

## 1. 5 授業時間について

授業時間は、次のとおりです。なおS・H・R（ショートホームルーム）は、担任が出欠の確認や連絡の伝達をする時間です。

授業時間割	
S・H・R	8:35～ 8:40
1時限	8:45～ 10:15
2時限	10:25～11:55
昼食	11:55～12:55
3時限	12:55～14:25
4時限	14:35～16:05